

学童保育ひろば in 尾張旭 “いっしょに子育て学童保育”～子どもを真ん中に～

2023年2月5日(日)

島田歩実

この学童保育ひろばの最初に、「親は“預けるだけ”」「指導員は“ケガなく帰すだけ”」ではなく、双方が一方通行ではなくて通じ合えるといいなと仰っていました。1990年からの学童保育ひろばの活動が続いているというお話もお聞きし、ずっとこの“いっしょに子育て”という思いを大切にしながら活動されてきたんだなということを知ることができてより良い機会となりました。

今回のテーマにもあるように、「一方通行にならないように。子どもを真ん中にして、より多くの保護者の方にこの思いを知って頂けるようにするためには私たちはどうしたらいいのか？」ということについて自分なりに考えてみました。

・学童やお家での様子、気持ちをお互いに知り合う

→日々のお迎え…どんな様子で過ごしていたのかをお伝えしたい。(決して事細かにではなく。子どもたちにも、知られたいこと、知られたくないことがある。加えて、私からではなく、自分から話したいこともあると思うし、何を話すかは自分で選択したいと思うから。そのバランスが難しいなと日々感じています。男の子は特に。)

よく保護者さんが「家でも最近そのあそびにはまってるんです」とか反対に「家とは全然違います、家でもそうやってお手伝いしてくれたらいいんだけどな!」というように仰っています。私の母がよく、「家であなたからよくきく名前(お友達)や話を、学校の先生からも同じようにきけると安心する。ああ、よく分かってくれているんだなと思う」と言っていました。だから「家でもそうです!家でもよく名前が出てきます!」と保護者の方から言っている瞬間は、なんだか一方通行ではないような気がして嬉しくなります。

学童での様子、お家での様子をお互いに話し、知ることができることは、お互いに嬉しく、一方通行ではないような気がしています。

→おたよりや保護者会…平岩事務局長が「保護者の方は、学童での子どもの様子を知る権利がある。だからこそ、こうやって保護者会を開催している」と仰っていました。私も、無条件に、大切なお子さんの様子を知ることができる環境を常に提供していかなければなと思っていました。保護者会で保育報告をさせて頂いたり、保護者会に参加が難しいご家庭さんにも知って頂けるようにおたよりを作成し配布をしたり、今後も続けていきます。

保護者会の参加率が伸び悩んでいることが自分の中の課題のひとつです。保護者会こそ、一方通行にならないような関わりができる絶好の機会となるといいなと思うのですが、なかなか難しいなと感じています。

前回の保護者会にて、「参加率が伸び悩んでいるのだけれど、どういう保護者会にしたら参加したいと思いますか?」と保護者さんにお聞きした時に、想像以上にいろいろなご意見を頂くことができて嬉しかったです。保護者会は、今どうしても保育報告や事務的な連絡等、

私たち指導員からの報告で終わってしまうことがほとんどなので、保護者さんから気になることや聞きたいこと(個人的にでも)、こうしてほしいこと等をきくことができる時間を設けることができたらいいのかなと考えています。

・保護者さんと指導員の関わりを増やす、濃くする

今回ひろばの中でも「関わりが減った」というご意見が出てきていたと思います。

→どんな指導員が、我が子と関わっているのかを知ってもらう

現在、おたよりを通してなるべく様々な指導員の名前や思いを書いて発信するようにしています。そうすることで、間接的な関わりにはなりますが、「どういう先生なの？」とお家で話題になりやすくなったらいいなと思いますし、チームワークでみんなで協力をしていることを伝えることで、いろいろな目で我が子をみているんだなという安心感を与えることができるようにするためです。何よりやっぱりどんな人が我が子と一緒にいるのか、ということは知ってもらうことで安心につながるかなと感じました。指導員の写真と名前の表をつくってほしいというご意見も以前の保護者会にて頂いたので、作成したいなと思います。

→保護者さんの思いをよくきく

関わり(関係性)を濃くしていきたいなと思っています。「最近、お家で学童のお話出ますか？」というように、会話のきっかけをこちらからつくり出したいです。「別に」ならそれはそれで、無理には話さず。でもその方がいつか気になることが出てきた時に、きいてみようかなと思って頂けるように常に話しかけやすい姿勢でいられるよう、保護者さんの話をよくきく、きこうとする姿勢はこれからも大切にしていこうと思います。あとは、「こんな風に対応をさせて頂いたのですが、お家ではどうですか？参考にさせて頂きたいです」とこちらから“相談”させて頂く形で引き出すこと。これは、未熟な私ならではのやり方かなと感じました。

まだまだ、保護者さんに学童のことを感じて頂き、一方通行にならないように子どもを真ん中に、一緒に子育てをしていくための方法はきっとたくさんあると思います。自分なりに保育をする中で日々見つけ、小さなことでもひとつずつ実践していきたいなと思いました。